

大阪湾再生行動計画の実施状況について



平成23年3月23日 大阪湾再生推進会議

平成22年度の主な取り組み事例

【行政機関による取り組み】

1. 水質の改善
2. 多様な生物の生息・生育場の再生
3. 親水性の向上
4. ごみ(河川・浮遊・漂着・海底)の削減
5. 大阪湾再生のためのモニタリング

1. 水質の改善

効果的・効率的な負荷削減

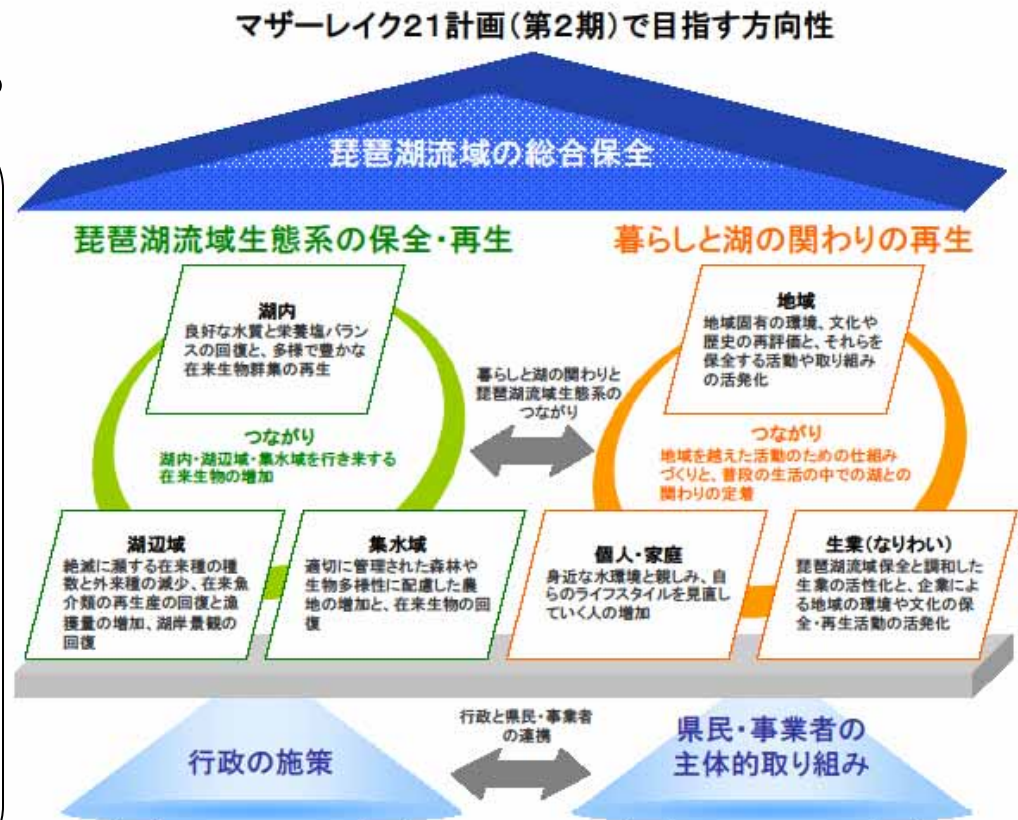
マザーレイク21計画(琵琶湖総合保全整備計画)による琵琶湖の総合保全[滋賀県]

・「マザーレイク21計画」の改訂を実施。

< 計画改訂のポイント >

第1期で柱とした「水質保全」「水源かん養」「自然的環境・景観保全」をまとめた「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と、新たに設けた「暮らしと湖の関わり」の2つを柱として据えた。

目標に対する指標について、県民にとってわかりやすい指標として、**生物的指標**や**人間の五感に基づく指標**の採用も検討しながら設けていく。



マザーレイク21計画(第2期)の概念図

下水道事業による排出負荷量の削減

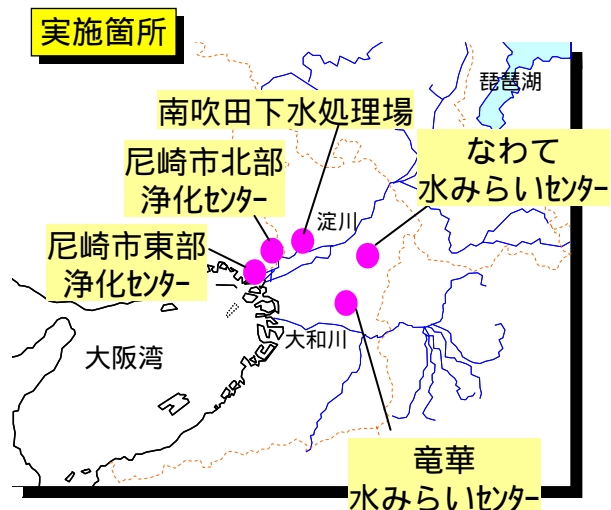
下水道の整備

- ・供用開始: 2箇所(なわて水みらいセンター[大阪府]、竜華水みらいセンター[大阪府])

→ 行動計画で計画した全ての処理場(4箇所)で供用開始

下水処理の高度処理化

- ・一部供用開始: 2箇所(なわて水みらいセンター[大阪府]、竜華水みらいセンター[大阪府])
- ・新規着手: 3箇所(南吹田下水処理場[大阪府]、尼崎市北部浄化センター、東部浄化センター[兵庫県])
- ・このほか、多くの処理場で高度処理を実施



なわて水みらいセンター



竜華水みらいセンター

河川浄化

河川浄化対策

- ・ 曾我川、佐保川[近畿地方整備局]、落堀川、恩智川、大川[大阪府]での河川浄化施設の整備等
- ・ 赤野井湾[滋賀県]での流入河川対策

浄化浚渫等

- ・ 西の湖[滋賀県]、寝屋川・平野川[大阪府]での浄化浚渫
- ・ 木浜内湖・平湖・柳平湖[滋賀県]での盛土工

導水事業

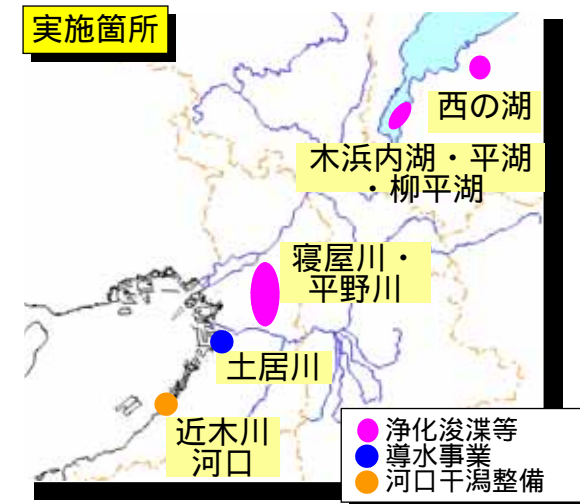
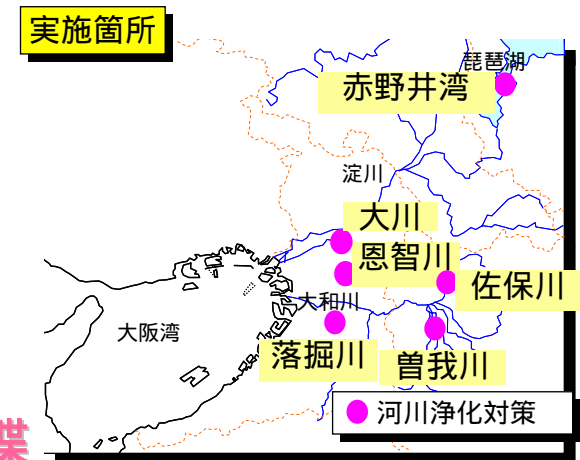
- ・ 土居川[堺市]での海水導水事業(第2期工事完了)
→ 次年度に導水を開始

河口干潟整備

- ・ 近木川[大阪府]での河口干潟造成



西の湖における浄化浚渫

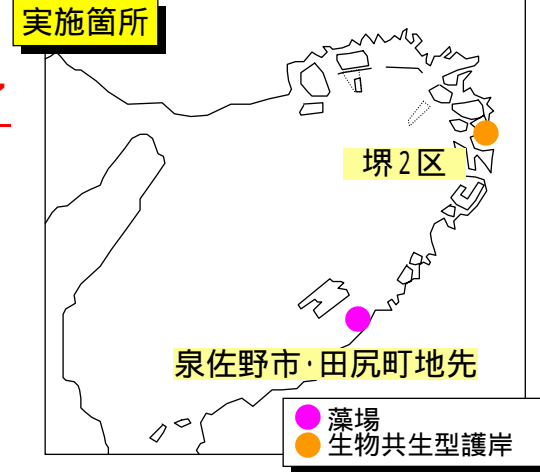


2. 多様な生物の生息・生育場の再生 藻場・干潟等の浅海域の創出

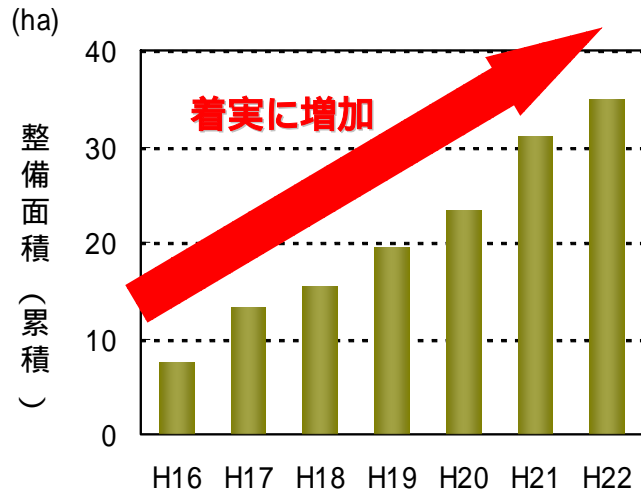
泉佐野市・田尻町地先: 4.0ha[大阪府] で藻場の整備完了

➡ 当初計画13.2haに対し、今年度までに35.05haを整備完了

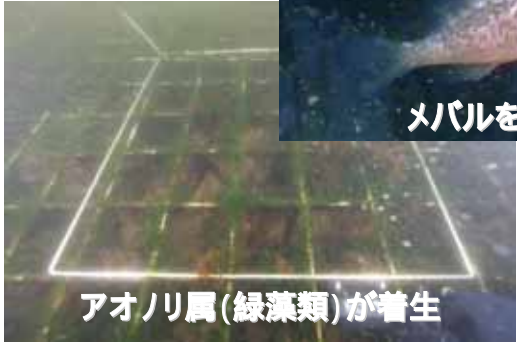
堺2区: 生物共生型護岸の順応的管理[近畿地方整備局]



藻場の整備状況



生物共生型護岸(堺2区)



モニタリングの状況



夏、恵みの海

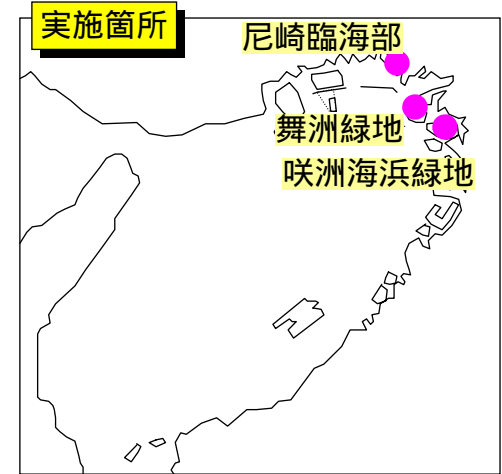
平たもなちに身近な海の生き物に親しんで
もらおうと、堺市の堺東北海岸2区にある大
工干潟(旧日)に、生き物観察があった。NPO
法人約旦文化協会が主催し、親子連れ約50
人が参加した。

人工干潟は、国の実験護岸「生物共生護
岸」の一部。老朽化した護岸の再整備に
併せ、生き物が生息しやすい環境を築いて
いる。まだ人は立ち入り禁止だが、大潟湖の環
境に馴染みを持ってほしいと、市域に開放され
た。参加した親子連れはバケツや網を片手
に、ハゼやイソシ、カニなどを懸命に採集し
た。伊藤恵里奈撮影。川原と一緒に参
加した、大阪市東淀川区の若原愛紗さん(7)
は、「ウサギがいてびっくりした」と、親子
少ない身体も楽しんでいった。

3. 親水性の向上

親水活動の実施、親水空間の整備

なぎさ海道ウォーク [(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構]、阪神なぎさ回廊ウォーク [兵庫県] 舞洲緑地、咲洲海浜緑地での魚つり開放 [大阪市]
尼崎運河部での遊歩道整備、植栽等の整備 (0.65km) [兵庫県]



なぎさ海道ウォーク
(江井ヶ島～播磨町駅、平成22年11月7日)



魚つり開放
(咲洲海浜緑地)



遊歩道整備、植栽等の整備
(尼崎運河部)

4. 浮遊・漂着・海底ごみの削減 河川清掃、海域でのごみ回収活動

河川清掃、海域でのごみ回収活動の継続実施[関係各機関]



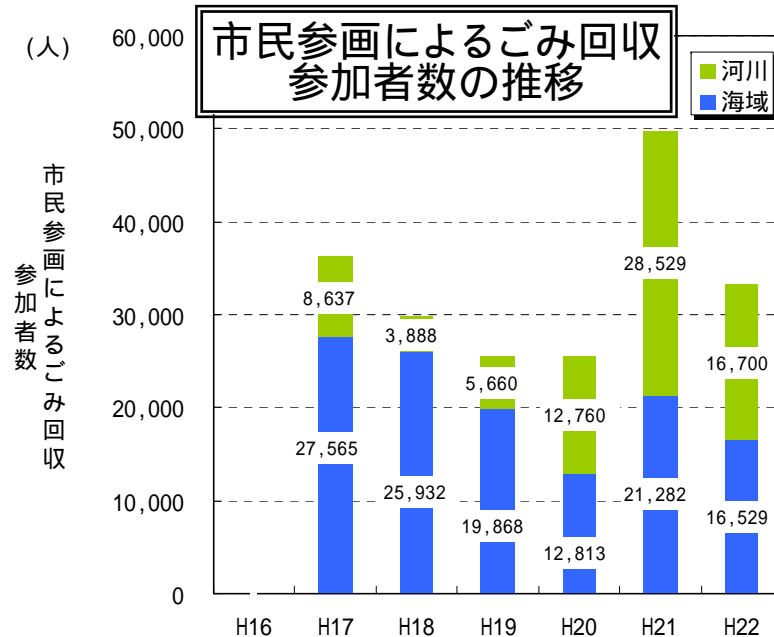
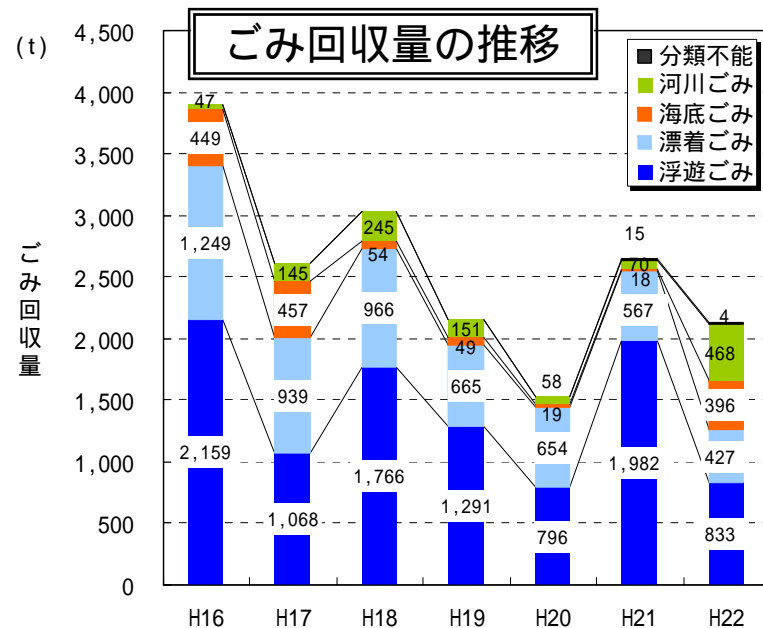
内川・土居川美化活動



須磨海岸クリーン作戦



なにわの海クリーン作戦



5. 大阪湾再生のためのモニタリング 効率的・効果的なモニタリングの実施

国、沿岸府県と臨海部の事業者・企業等との連携による「**第7回
大阪湾再生水質一斉調査**」を実施 [大阪湾再生推進会議]

< 目的 >

- ・大阪湾全域の水質水平分布の把握
- ・効率的、効果的なモニタリングへ向けた関係機関連携によるモニタリング体制の検討

< 実施日 >

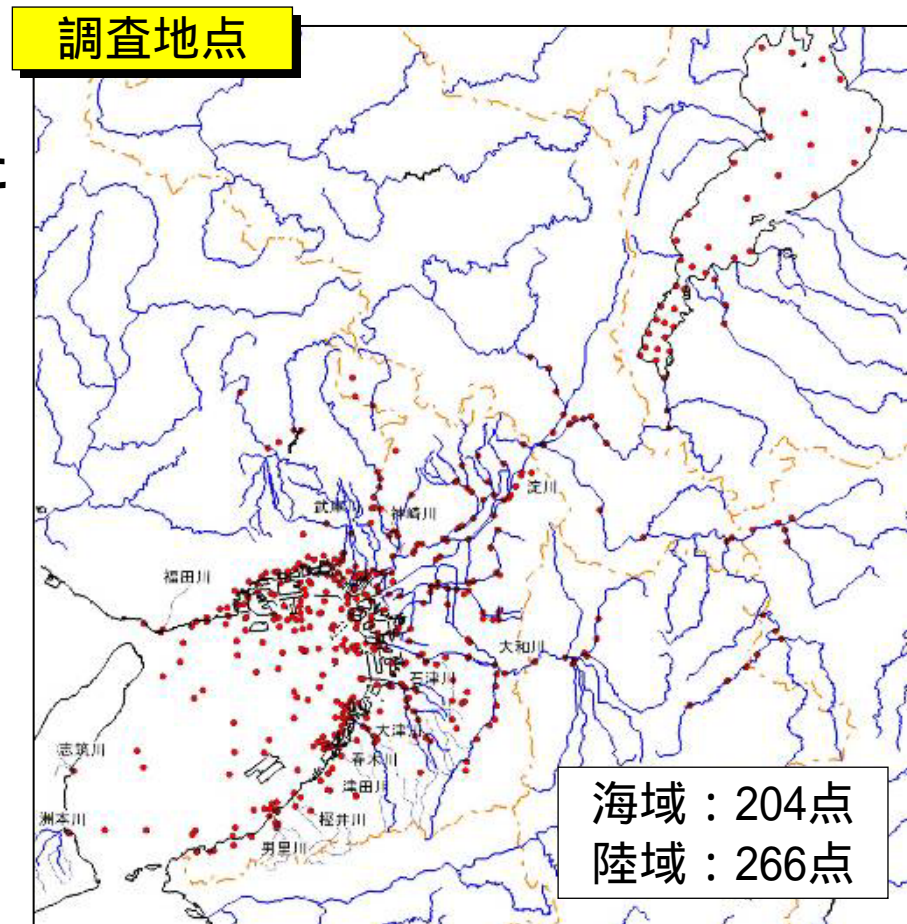
- ・平成22年8月3日を中心に実施

< 調査地点 >

- ・海域：204点、陸域：266地点

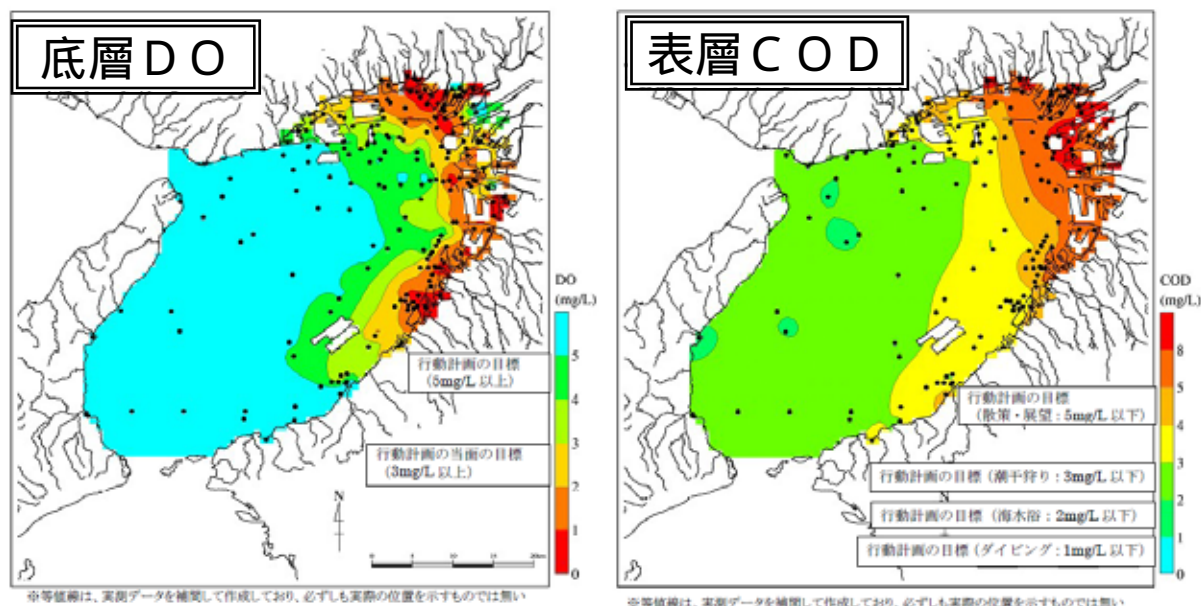
< 参加状況 >

- ・国、自治体、研究機関、企業など



< 調査結果 >

- ・既存調査ではあまり測定されていなかった、海岸線近くの調査地点を含め、多くの調査地点で同時に調査を行うことにより、大阪湾全域の水質の水平分布を把握した。

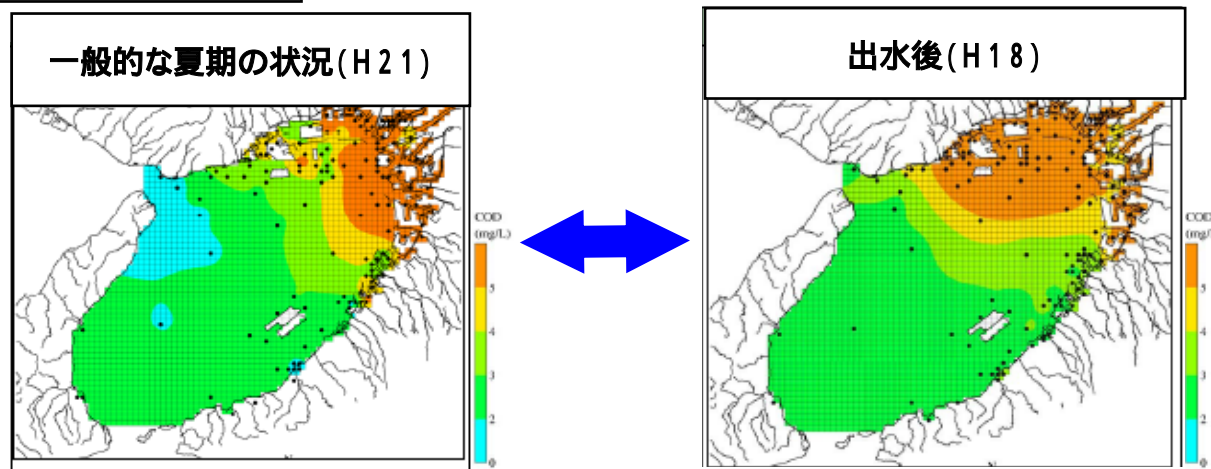


水質の水平分布（平成22年度）

< これまでの調査から解ったこと >

- ・6年間の調査結果から、気象状況と水質の水平分布の関係が明らかとなってきた。

表層COD



一般的な夏季の状況に比べて、出水後には表層CODが5 mg/L以上の範囲が広がっている。

市民参画によるモニタリング

多くの市民の協力のもと、大阪湾沿岸に生息する生き物の調査により水環境を把握する「**第3回大阪湾生き物一斉調査**」を実施[神戸港湾空港技術調査事務所]

< 調査場所 >

・17箇所(22地点)

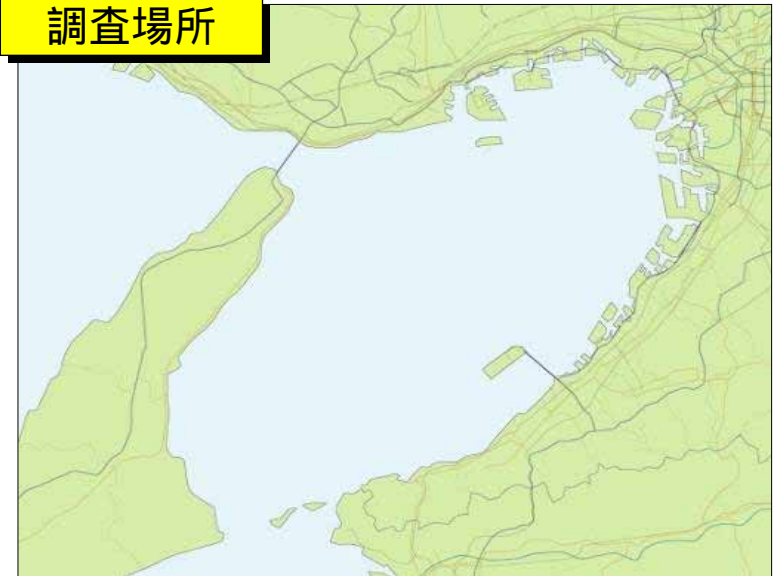
< 調査日 >

・平成22年5月29日を中心に実施

< 参加者数 >

・792名(16団体)

調査場所



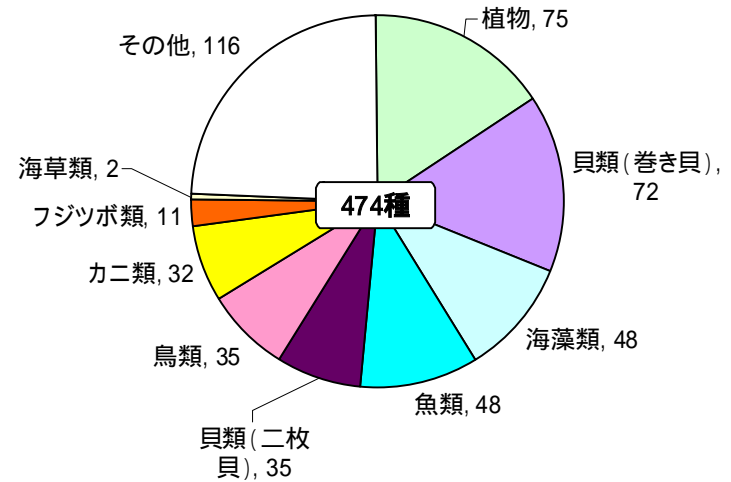
調査地点	調査地点の環境	担当団体
1 アジュール舞子	砂浜、磯・岩礁	須磨海浜水族園ボランティア
2 香爐園浜	砂浜、磯、干潟	西宮自然保護協会
3 甲子園浜海浜公園	干潟	NPO法人 海浜の自然環境を守る会
	干潟	NPO法人 シニア自然大学校 子供教育部門
4 矢倉海岸	干潟	西淀自然文化協会
5 十三干潟(淀川)	干潟	(社)大阪自然環境保全協会 淀川自然観察会[5/30]
6 大阪南港野鳥園	人工磯・干潟	大阪南港野鳥園
7 高師浜	砂浜、干潟	浜寺公園自然の会
8 大津川河口	干潟	きしわだ自然資料館[5/30]
9 阪南二区埋立地	干潟	きしわだ自然友の会
10 近木川河口	干潟	NPO法人 シニア自然大学校 森と海の自然科[5/27]
	干潟	貝塚市立自然遊学館[5/15]
11 二色の浜	砂浜、磯	貝塚市立自然遊学館[5/8、5/15]
12 榎井川河口 岡田浦海岸 樽井海岸	砂浜、岩礁	男里川・河口干潟を守る会
13 男里川河口干潟	干潟	
14 せんなん里海公園	砂浜、磯、岩礁	里海くらぶ連絡協議会
15 東川(落合川)河口	干潟	きしわだ自然資料館[5/30]
16 洲本市大浜	磯、岩礁	国立公園成ヶ島を美しくする会
17 堺2区埋立地	磯、岩礁、干潟	NPO法人 釣り文化協会

< 調査結果 >

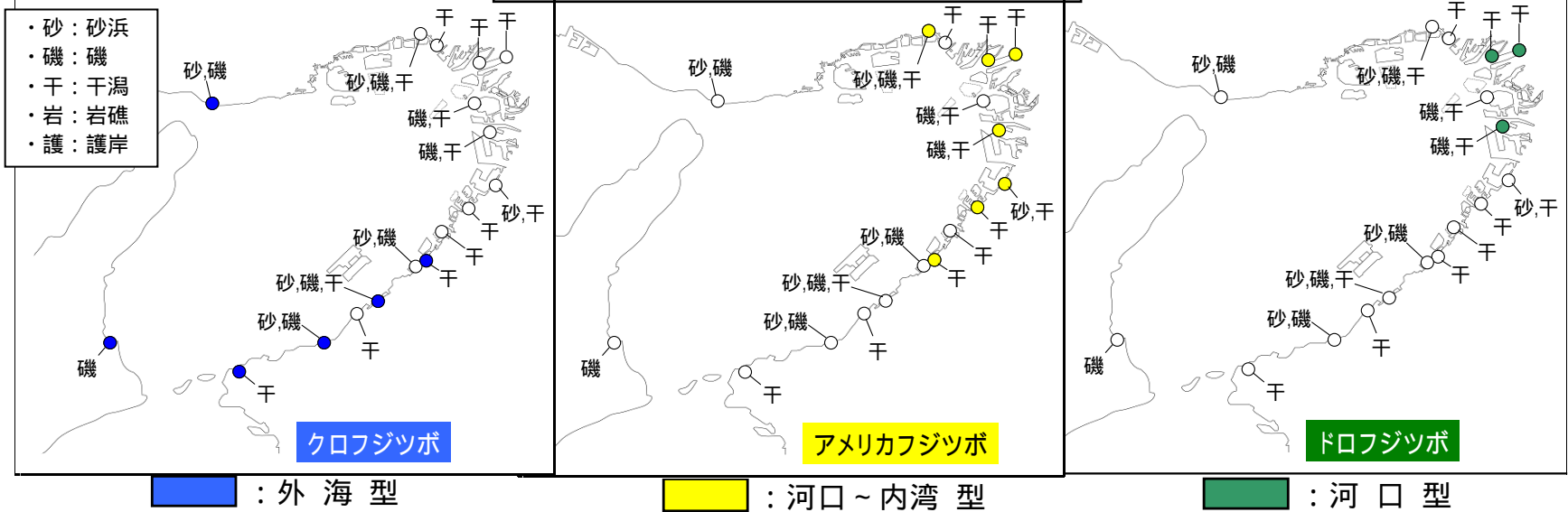
・確認された生物の種類数：474種

・外海型のクロフジツボは湾中間域より湾口側で出現し、河口型のドロフジツボは湾奥の3地点で出現するなど、**大阪湾沿岸に棲む生き物の分布状況が明らかとなった。**

分類群ごとの確認種



生き物の分布状況の例



H22年度の重点的な取り組みへの対応

陸域負荷削減効果の評価とアピール

下水道整備、下水処理水の活用等による環境改善効果の検討・PRを実施

表彰制度の継続・発展

第2回「魚庭の海」賞の募集・選考を実施(選考方法の見直しを実施)

アウトカム指標による評価の継続・発展

大阪湾再生に関するアンケート調査を実施

平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめの実施(後述)

平成16～21年度の6年間の取組状況等のとりまとめを実施

広報の強化

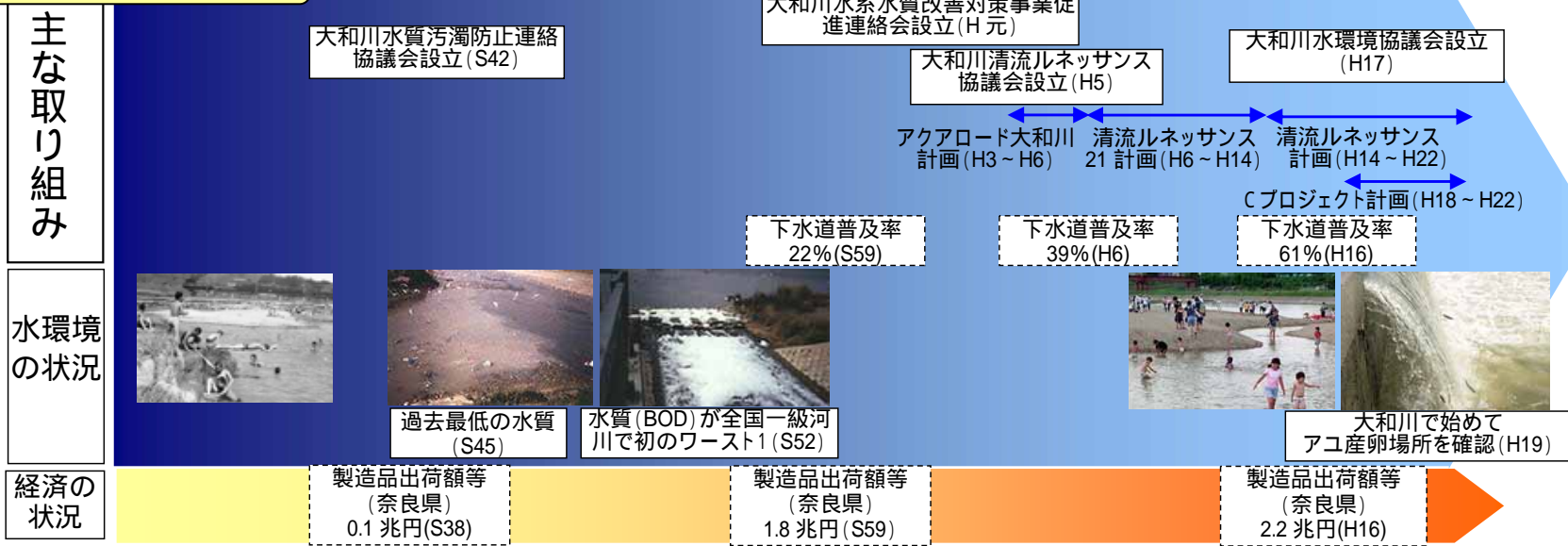
“大阪湾の企画展”を開催

行動計画期間を見据えた取り組みの重点化等の検討

市民参加による流入負荷削減等の検討を実施

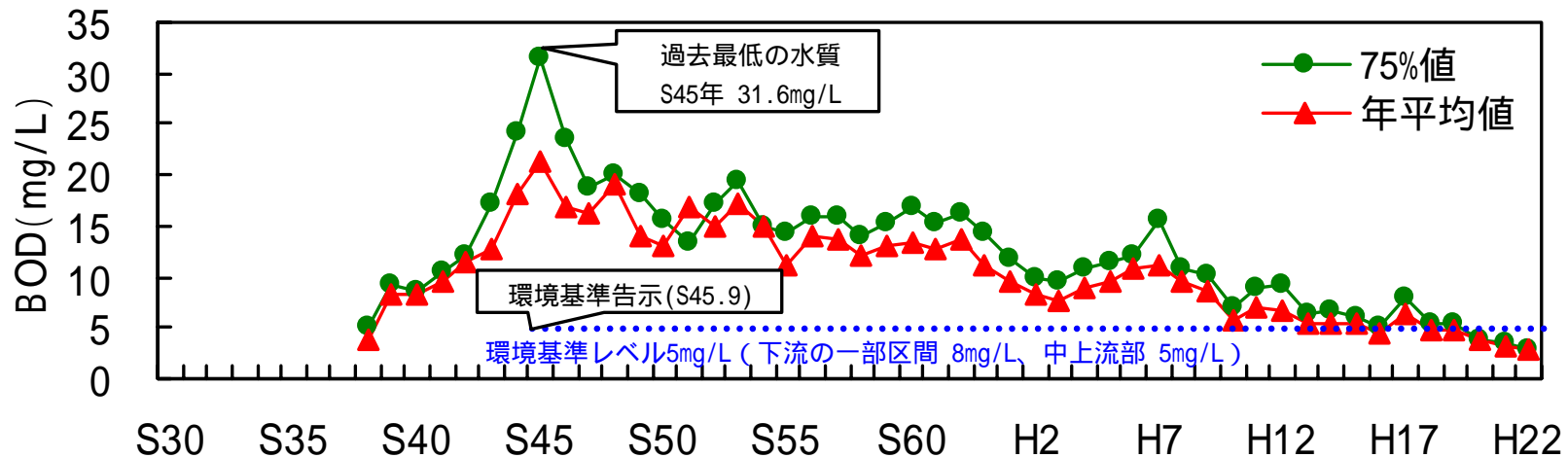
陸域負荷削減効果の評価とアピール 【例】大和川流域

大和川流域のトピックス



河川水質

(大和川本川8地点平均BOD)

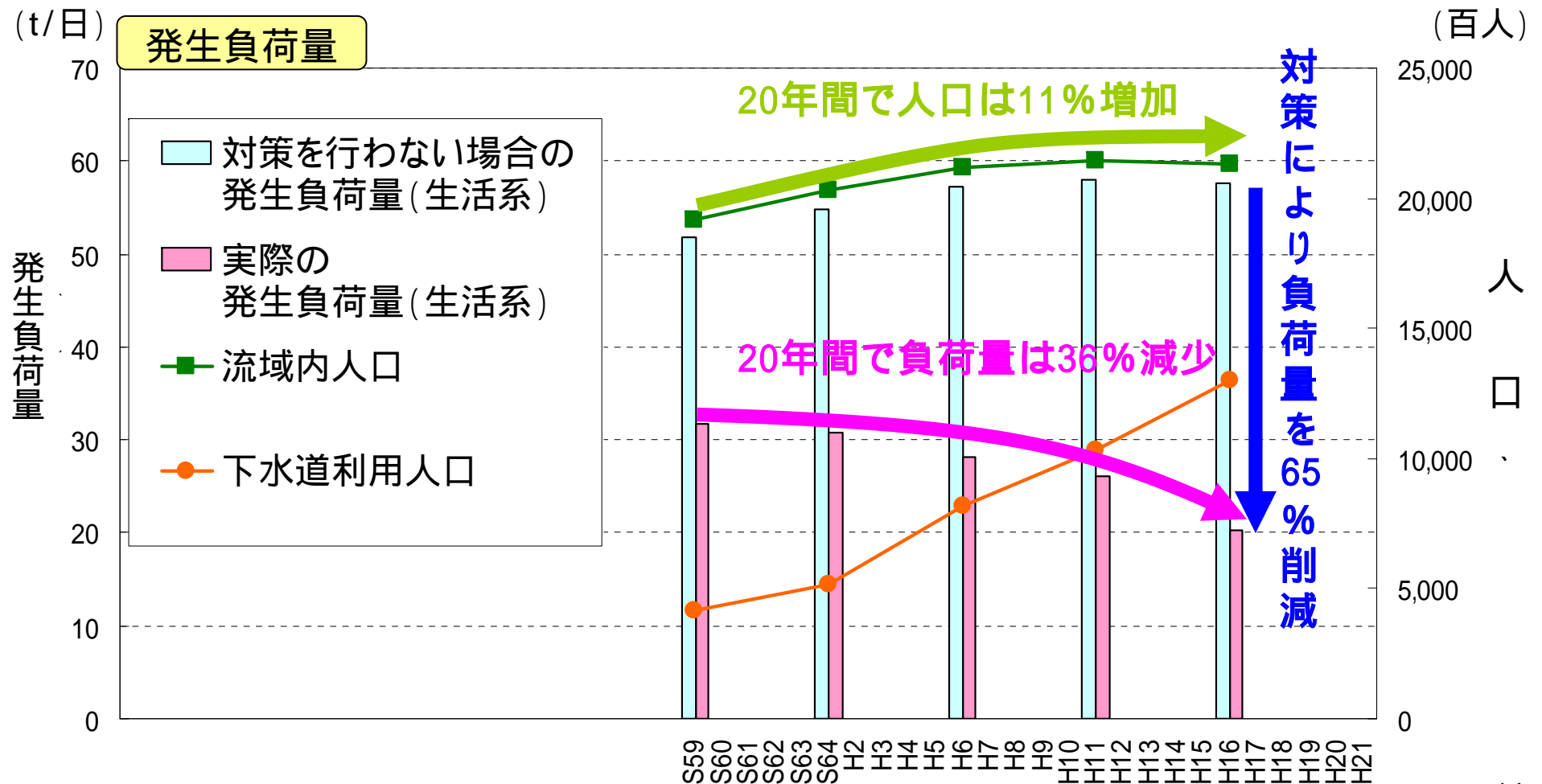


大和川流域では、下水道整備等の生活排水対策により、昭和52年には全国一級河川のワースト1であったが、平成19年度にははじめてアユの産卵場所が確認されるなど、水質が大きく改善。

陸域負荷削減効果の評価とアピール 【例】大和川流域

下水道整備、下水処理水の活用等による

環境改善効果の検討・PRを実施 【陸域G】



表彰制度の継続・発展

大阪湾再生に関する活動を表彰する第2回『魚庭の海』賞の募集・選考を実施[全体G]

【経緯】

平成22年7月19日(海の日)～9月30日募集(応募団体数:10件)

平成22年12月17日 二次選考会を開催

平成23年1月6日 選考委員会を開催

・選考委員会メンバー:委員長(企画部長)、委員6名(学識者2名、全体G長、陸域G長、海域G長、モニタリングG長)

・選考結果:『魚庭の海』大賞1点、『魚庭の海』特別賞1点、『魚庭の海』賞3点、『魚庭の海』奨励賞5点

平成23年3月 大阪湾再生推進会議で表彰式を実施

表彰後、受賞団体による10分程度の活動報告

平成23度 第3回『魚庭の海』賞を実施予定

【選考方法の見直し】

書類選考に加え、取組報告会(プレゼンテーション)による選考を実施。

第2回『魚庭の海』賞 受賞団体の紹介

受賞名	団体名【活動名称】
『魚庭の海』大賞	NPO法人 海浜の自然環境を守る会【甲子園浜の環境保全】
『魚庭の海』特別賞	NPO法人 釣り文化協会【釣り人による大阪湾の水質調査】
『魚庭の海』賞	大阪府漁民(魚庭)の森づくり協議会【魚庭の森づくり推進事業～森・川・海はひとつ～】 きしわだ自然友の会【大阪・和歌山ベイエリアキャラバン こんなに面白いなぎさ海道】 男里川干潟を守る会【地域の組織力(地縁・血縁)が支える男里川干潟を守る取り組み】
『魚庭の海』奨励賞	パナソニック エコリレー ジャパン【BYOSクリーンネットワーク】 NPO法人 観濠クルーズSakai【堺のんびりクルーズ、水上ウォッチング】 里海くらすぶ連絡協議会【各団体の「得意技」を活かした、多様な環境学習プログラムや環境保全活動の実施】 大阪府立泉鳥取高等学校フィールドワーク同好会【泉南地域の河川や海岸の生物観察・調査と地域の団体との交流】 大阪府立貝塚高等学校園芸環境部【よみがえれアマモ場大阪湾の復活(近木川の水質調査から見てきたこと)】

アウトカム指標による評価の継続・発展

大阪湾の環境や大阪湾再生の取り組みに対して、住民の方がどのように感じているかなどを把握するため、**大阪湾再生に関するアンケート調査**を実施[全体G]

【目的】

大阪湾の環境や大阪湾再生の取り組みに対して、住民(内陸部を含む大阪湾集水域内)がどのように感じているか、また、取り組みによって意識にどのような変化があったかを把握し、6ヶ年活動報告のとりまとめの参考指標とするとともに、今後の取り組みの参考とする。

【主なアンケート項目】

大阪湾への訪問回数、場所、目的
大阪湾のイメージ・印象
大阪湾再生行動計画の認知状況
自由意見(大阪湾の環境について、大阪湾再生行動計画について)

【実施状況】

実施期間:平成22年7月19日～9月30日
回答状況:配布数1,407、回答数575、回収率41%

【結果の概要】

大阪湾の環境(海の色、におい、近づきやすさ、ごみの量など)について、最近大阪湾に行っていない人よりも、行ったことがある人の方が、良い印象を持つ人が多い。概ね10年前に比べて、大阪湾の環境は改善したとの印象を持つ人が多い。

広報の強化

住民の方に大阪湾やその周辺の環境を身近に感じていただき、海の環境を改めて考えていただく機会にさせていただくため、“大阪湾の企画展”を今年度初めて開催[全体G]

【概要】

開催期間

平成22年8月20日～29日

開催場所

「川の駅」はちけんや
(大阪市中央区)

来場者数

約800人



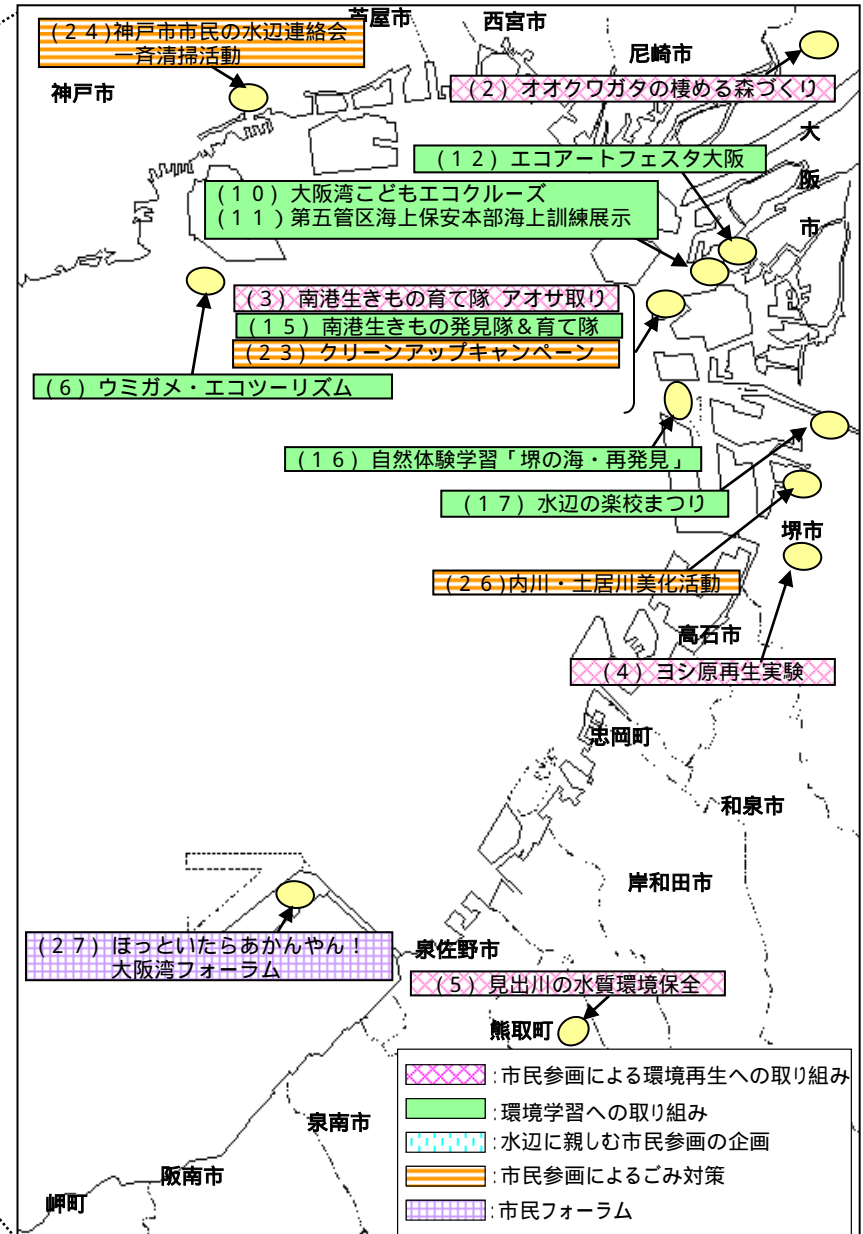
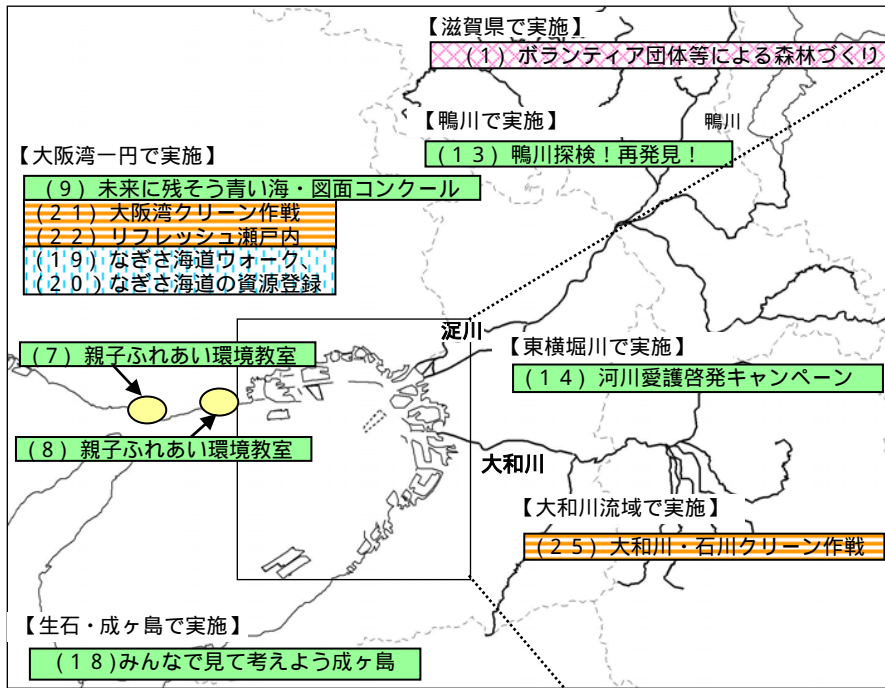
行動計画期間を見据えた取り組みの重点化等の検討

市民参加による流入負荷削減等の検討[全体G]

- ・平成16年度以降、毎年大和川流域で実施している「生活排水対策社会実験」を他の流域でも展開するための検討を実施。

【市民参画による取り組み】

市民参画の取り組み



取り組み内容
環境再生、環境学習、
水辺に親しむ企画、ごみ対策など
件数：27件

大阪湾周辺各地で
多様な取り組み実施

オオクワガタの棲める森づくり

箕面の在来樹種により、里山の再生と生物の多様性の向上を目指し、市民参加による植樹祭等を実施

【場所】箕面体験学習の森(大阪府箕面市)

【実施日】平成22年4、5、10月

【主体】林野庁、近畿中国森林管理局、箕面森林環境保全ふれあいセンター

【参加者数】延べ300人

【内容】箕面市内の小学校、幼稚園児、ボランティア、地域住民等により、約1年間ドングリから育てたクヌギ、コナラの苗木を山に返す植樹祭等を実施



植樹祭等の実施状況
(写真提供：近畿中国森林管理局)

エコアートフェスタ大阪2010

大阪港の美観保持と市民への環境啓発をめざし、「ごみアート甲子園」、「エコツアー」、「ワークショップ」など様々な企画を実施

【場所】天保山ハーバービレッジイベント広場ほか

【実施日】平成22年10月30日～11月7日

【主体】エコアートフェスタ大阪実行委員会
(協働:大阪市など)

【参加者数】56,600人

【内容】大阪港のごみなどを使ったオブジェの展示「ごみアート甲子園」、大阪港を周遊する船内で環境学習を実施する「エコツアー」、参加しながら環境について学ぶ「ワークショップ」、企業・団体による環境啓発展示、「稚魚の放流」など



エコアートフェスタ大阪2010の実施状況
(写真提供:大阪市)